

# 病院の 実力

～神奈川編 129

## 肺がん

今回は、がんの年間死亡数で最も多い肺がんを取り上げる。一覧表には2017年に新たに

行った治療の実績を掲載した。肺がんには四つのタイプがある。まず小細胞肺がん、非小細胞肺がんは大別され、非小細胞肺がんはさらに、腺がん、扁平上皮がん、大細胞がんに分かれる。

治療法は、手術、放射線療法、薬物療法の三つ。がんのタイプや進み具合、全身の状態により、複数の治療法を組み合わせを行うこともある。

標準的な手術は、がんのある肺葉という部分の切除だ。近年、

# 新薬続々 治療の選択肢増

肺葉より狭い範囲の「区域」などを切除する縮小手術も行われる。胸腔鏡を使う方法では今春、ロボット手術も保険が適用されるようになった。

放射線治療のうち、根治を目指す照射は、持病で手術が難しい患者らに行う。がん細胞を狙

い撃ちする定位照射も普及している。薬物治療は、多くの患者が受ける。特に、再発・転移患者にとっては重要だ。抗がん剤のほか、がんの遺伝子変異に応じて使う分子標的薬や、免疫の働きを高める免疫チェックポイント

## 早期発見 年1回の検診有効

県立がんセンター



山田 耕三 呼吸器内科部長

肺がんの予防には禁煙が必要だ。男性の患者は8割近くが喫煙者。女性は7割が非喫煙者だが、受動喫煙や大気汚染の影響が出てくる可能性が言われている。

テレビドラマで見ると血たんで見つかることはほとんどない。早期に見つけるには、年1回の検診が有効。できればコンピュータ断層撮影装置(CT)検査が望ましい。通常の胸部レントゲン写真で肺がんが見つかる

のは、10万人のうち50〜60人ほど。一方、CT検査では300〜600人見つかる。肋骨や肩甲骨などの骨組織や心臓や大血管に隠れて、レントゲン写真では見つからないような肺がんや、5ミリほどの小さな肺がんも見つけることができる。

治療方法は、がんの進行具合や患者の体力などにより異なり、手術を受ける患者数が増えている。がんセンターでは、2015年に318人が肺がんの切除を受けたが、昨年さらに増え359人だった。標準的な

手術は、がんが存在する肺葉という領域の切除だが、肺葉の中のさらに区分された「区域」などを切除する小さな手術を積極的にを行い、再生しない肺の機能を保ち、患者のQOL(クオリティー・オブ・ライフ)生活の質)を重視している。

ここ1、2年で胸腔鏡による手術も増えた。手術にかかる時間もほぼ一緒で、切除の「創」が小さく、術後のつらさが軽減される。ロボット支援手術も来年から始め、どこまで有効かを検証する予定だ。放射線治療も、通常の治療のほかに、重粒子線や定位照射による方法があり、患者の状態や仕事の都合などを考慮して選択する。

がんセンターでは呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科、肺がん病理の4グループが連携しており、薬物治療における抗がん剤と免疫チェックポイント阻害剤の併用など、様々な治療も行っている。

検診を受け、見つかった「肺の陰影」を放置せずに精査し、処置をして結果を把握する一連の管理が大切だ。がんセンターは地域の診療所の医師とも連携して治療にあたっている。

まずは近くの診療所で、症状、病状を相談できるかかりつけ医を作ってほしい。

## 病院の実力「肺がん」

医療機関別2017年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	手術患者数 (人)	放射線治療(根治的照射)患者数 (人)	薬物療法を受けた患者数 (人)
北里大	172	150	124
東海大	159	194	78
昭和大横浜市北部	148	50	38
県立循環器呼吸器病セ	125	120	69
聖マリアンナ医大	113	110	24
横浜労災	97	52	14
横浜市大市民総合医療セ	96	112	52
横浜市民市市民	95	180	84
横浜栄共済	89	79	7
市立川崎	85	108	25
済生会横浜市東部	64	—	50
相模原協同	60	55	24
横浜市大病院	58	—	0
湘南鎌倉総合	58	154	12
藤沢市民	51	35	6
平塚共済	43	123	13
国・横浜医療セ	38	34	17
横浜南共済	36	39	10
新百合ヶ丘総合	34	78	20
済生会横浜市南部	25	33	0
横浜市立みなと赤十字	24	47	22
けいゆう	24	30	8
小田原市立	23	10	6
茅ヶ崎市立	22	29	4
海老名総合	20	—	0
川崎市立井田	17	50	20
厚木市立	13	73	15
大和市立	12	11	0
藤沢湘南台	12	5	0
川崎幸	0	0	1
川崎市立多摩	0	15	0
昭和大藤が丘	0	121	19
聖マリアンナ医大横浜市西部	0	18	0
県立足柄上	0	28	0
伊勢原協同	0	50	0

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または不明

全国の調査結果は19日の「安心設計面」に掲載しました。